

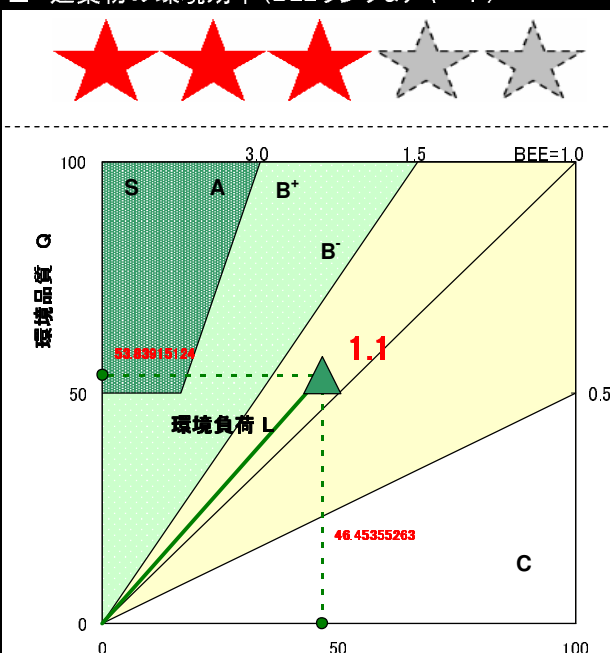
CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要		■ 外観	
建物名称	ゆめマート鏡店	階数	地上1F
建設地	熊本県八代市鏡町	構造	S造
用途地域	準工業地域、22条地域	平均居住人員	XX 人
気候区分	地域区分V	年間使用時間	5,475 時間/年
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2011年3月 予定	評価の実施日	2010年11月16日
敷地面積	3,839 m ²	作成者	
建築面積	2,125 m ²	確認日	2008年7月10日
延床面積	2,039 m ²	確認者	



1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



BEE = 1.1

$$\text{BEE(環境効率)} = \frac{Q(\text{環境品質})}{L(\text{環境負荷})}$$

■ CASBEE 評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	☆☆☆☆☆	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	☆☆☆☆	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	☆☆☆	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	☆☆	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	☆	劣る	0.5未満	—

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



評価点

81

評価点

■ 熊本県重点評価基準

- 【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進
- 【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現
- 【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全
- 【重点事項4】 循環型社会の実現

82.2

63.7

92.8

85.5

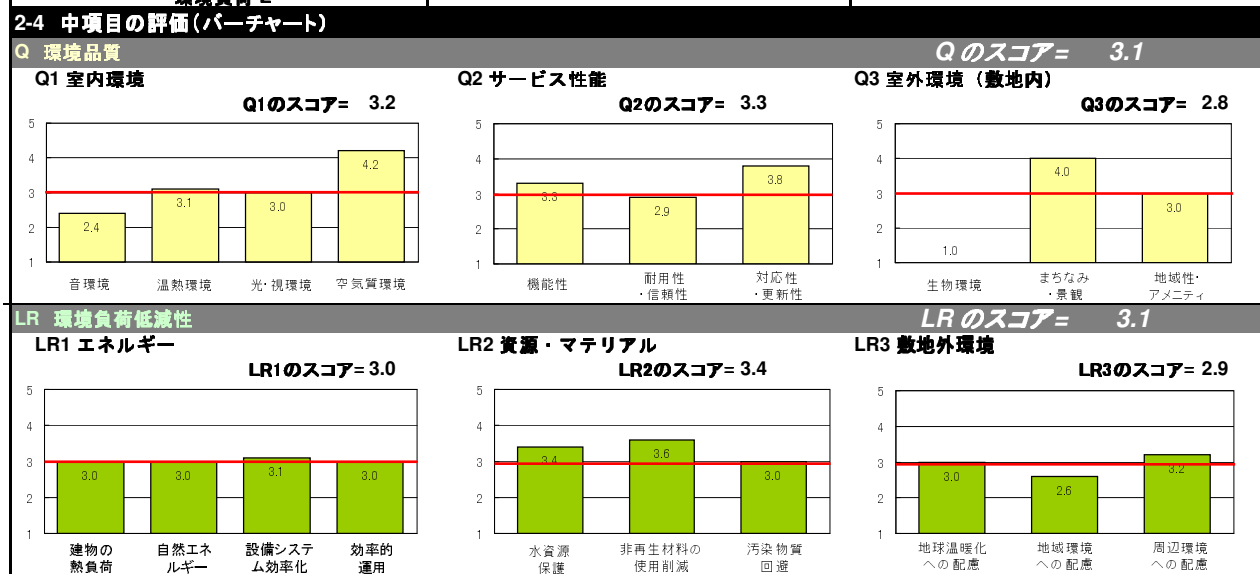
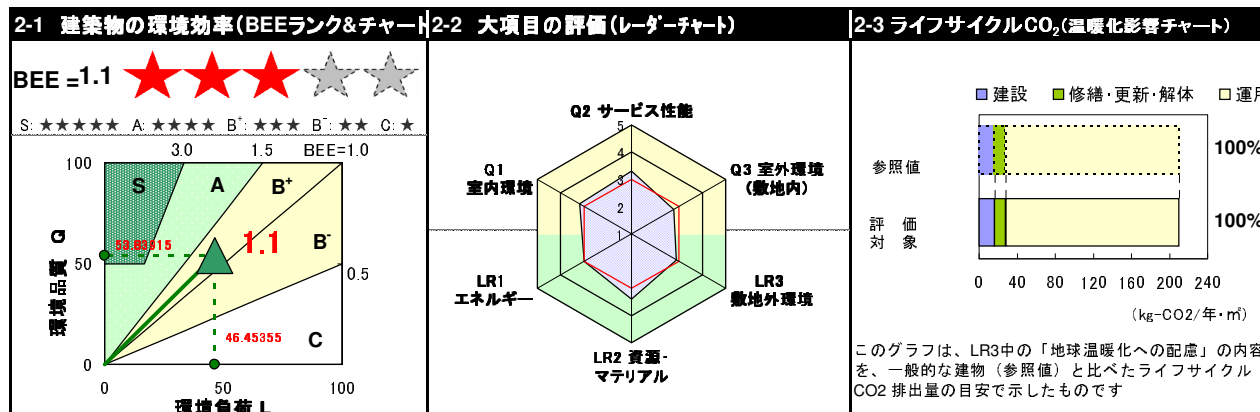
判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	☆☆☆☆☆
80点以上100点未満	☆☆☆☆
60点以上80点未満	☆☆☆
40点以上60点未満	☆☆
40点未満	☆

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE® 熊本《新築》【評価結果】

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築 (簡易版) 2008年版 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.2)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	ゆめマート鏡店	階数	地上1F	
建設地	熊本県八代市鏡町	構造	S造	
用途地域	準工業地域、22条地域	平均居住人員	XX 人	
気候区分	地域区分V	年間使用時間	5,475 時間/年	
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2011年3月 予定	評価の実施日	2010年11月16日	
敷地面積	3,839 m ²	作成者		
建築面積	2,125 m ²	確認日	2008年7月10日	
延床面積	2,039 m ²	確認者		



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO: 算定条件等については、「LCCO:算定条件シート」を参照されたい

CASBEE®熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。

■建物の環境性能を高め、環境負荷の低減に努め、環境にやさしい建物とする。

Q1 室内環境

注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

■日射遮蔽性能、断熱性能を高める。また、ホルムアルデヒド等の健康被害を起こす物質を含んだ材料の使用を回避する。

Q2 サービス性能

注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

■天井を高く、通路を広くとりゆとりある空間計画とした。また、不特定多数の利用者に配慮し、建物内外においてできるかぎりバリアフリーに努めた。

Q3 室外環境（敷地内）

注) 「Q3 室外環境（敷地内）」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

■周辺の景観に配慮し外壁色は白を基調とし、設備機器が幹線道路から見えないようにした。また、幹線道路側に植栽帯を設けた。

LR1 エネルギー

注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

■日射遮蔽性能、断熱性能を高める。また、ホルムアルデヒド等の健康被害を起こす物質を含んだ材料の使用を回避する。

LR2 資源・マテリアル

注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

■節水に有効な設備機器の使用とリサイクル材料の使用を取り入れた。

LR3 敷地外環境

注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

■交通負荷抑制の考慮と、光害防止への配慮

その他

注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。

CASBEE-新築(簡易版)2008年版
ゆめマート競店

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2008年

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.2)

スコアシート 実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						3.1
Q1 室内環境			0.40			3.2
1 音環境		2.4	0.15		-	2.4
1.1 騒音		3.0	0.70		-	
1 1 暗騒音レベル		3.0	1.00		-	
1.2 遮音			-		-	
1 1 開口部遮音性能			-		-	
2 2 界壁遮音性能			-		-	
3 3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-		-	
4 4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-		-	
1.3 吸音		1.0	0.30		-	
2 温熱環境		3.1	0.35		-	3.1
2.1 室温制御		3.6	0.50		-	
1 1 室温設定		3.0	0.50		-	
2 2 室温変動・室温制御性			-		-	
3 3 外皮性能	日射遮蔽性能、断熱性能を高める	5.0	0.17		-	
4 4 ゾーン別制御性	内部負荷の分布を考慮したゾーニング、ゾーン別に冷暖切り替え可	4.0	0.33		-	
5 5 室温・湿度制御			-		-	
6 6 室温・湿度制御			-		-	
7 7 室温・湿度制御			-		-	
8 8 室温・湿度制御			-		-	
2.2 湿度制御		2.0	0.20		-	
2.3 空調方式		3.0	0.30		-	
3 光・視環境		3.0	0.25		-	3.0
3.1 昼光利用		3.0	0.50		-	
1 1 昼光率			-		-	
2 2 方位別開口			-		-	
3 3 昼光利用設備		3.0	1.00		-	
3.2 グレア対策			-		-	
1 1 グレア対策			-		-	
2 2 昼光制御			-		-	
3.3 照度			-		-	
1 1 照度			-		-	
3.4 照明制御		3.0	0.50		-	
4 空気質環境		4.2	0.25		-	4.2
4.1 発生源対策		4.0	0.50		-	
1 1 化学汚染物質	天井、壁、床材全面にF☆☆☆☆使用	4.0	1.00		-	
2 2 化学汚染物質			-		-	
3 3 化学汚染物質			-		-	
4 4 化学汚染物質			-		-	
4.2 換気		4.0	0.30		-	
1 1 換気量	建築基準法の1.4倍以上の換気設備能力	5.0	0.50		-	
2 2 自然換気性能			-		-	
3 3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50		-	
4 4 換気設備			-		-	
4.3 運用管理		5.0	0.20		-	
1 1 CO ₂ の監視			-		-	
2 2 喫煙の制御	館内喫煙禁止	5.0	1.00		-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.3
1 機能性		3.3	0.40		-	3.3
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40		-	
1 1 広さ・収納性			-		-	
2 2 高度情報通信設備対応			-		-	
3 3 バリアフリー計画		3.0	1.00		-	
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30		-	
1 1 広さ感・景観	売場の天井高さ3.95m	5.0	0.33		-	
2 2 リフレッシュスペース		1.0	0.33		-	
3 3 内装計画		3.0	0.33		-	
1.3 維持管理		4.0	0.30		-	
1 1 維持管理に配慮した設計	維持管理しやすい材料、耐候性の高い材料を使用する計画	5.0	0.50		-	
2 2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性		2.9	0.31		-	2.9
2.1 耐震・免震		3.0	0.48		-	
1 1 耐震性		3.0	0.80		-	
2 2 免震・制振性能		3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.1	0.33		-	
1 1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23		-	
2 2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23		-	
3 3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09		-	
4 4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08		-	
5 5 空調・給排水配管の更新必要間隔	2種以上にC以上を使用	4.0	0.15		-	
6 6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23		-	

2.4 信頼性			2.6	-		-	
1	空調・換気設備		3.0	0.19		-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20		-	
3	電気設備		3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法		1.0	0.20		-	
5	通信・情報設備		3.0	0.20		-	
3 対応性・更新性			3.8	0.29		-	3.8
3.1 空間のゆとり			5.0	0.31		-	
1	階高のゆとり	階高5.2m	5.0	0.60		-	
2	空間の形状・自由さ	鉄骨ラーメン構造、耐力壁無し	5.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31		-	
3.3 設備の更新性			3.7	0.38		-	
1	空調配管の更新性	天井スペースが十分あり、構造、仕上材を傷めず更新・修繕可	4.0	0.17		-	
2	給排水管の更新性		1.0	0.17		-	
3	電気配線の更新性	構造、仕上材を傷めず更新・修繕可	5.0	0.11		-	
4	通信配線の更新性	空配管施工のため、仕上材を傷めず更新・修繕可	5.0	0.11		-	
5	設備機器の更新性	更新に対応したルート、設置場所としている	5.0	0.22		-	
6	バックアップスペース		3.0	0.22		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.8
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			4.0	0.40		-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30		-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.0
1 建物の熱負荷抑制			3.0	0.30		-	3.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20		-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50		-	
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50		-	
3 設備システムの効率化			ERR=0	0.30		-	3.1
4 効率的運用			3.0	0.20		-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50		-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.4
1 水資源保護			3.4	0.15		-	3.4
1.1	節水	節水に有効な器具を使用	4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水再利用			3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67		-	
2	雑排水再利用システム導入の有無		3.0	0.33		-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.6	0.63		-	3.6
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07		-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.25		-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.21		-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	アスファルト舗装の路盤に再生骨材の路盤材とポーチ、ピロティの床タイ	4.0	0.21		-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		5.0	-		-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	鉄骨造で屋根、壁、天井が全面的に乾式、取り外し分別が容易	5.0	0.25		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.22		-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.68		-	
1	消火剤		-	-		-	
2	断熱材		3.0	0.50		-	
3	冷媒		3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	2.9
1 地球温暖化への配慮			3.0	0.33		-	3.0
2 地域環境への配慮			2.6	0.33		-	2.6
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制	駐車、駐輪スペース確保、車の出入り分離、搬入車輛との分離	5.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33		-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
1	騒音		3.0	1.00		-	
2	振動		-	-		-	
3	悪臭		-	-		-	
3.2 風害、日照障害の抑制			3.0	0.40		-	
1	風害の抑制		3.0	0.70		-	
2	日照障害の抑制		3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策	光害対策ガイドラインの過半を考慮	5.0	0.70		-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	